

作業環境測定結果記録表（B 特定化学物質、鉛、有機溶剤、石綿用）

報告書（証明書）番号 _____

1 測定を実施した作業環境測定士

⑪ 氏名	⑫ 登録番号	実施項目の別		
	—	デザイン	サンプリング	分析
	—	デザイン	サンプリング	分析
	—	デザイン	サンプリング	分析
	—	デザイン	サンプリング	分析
	—	デザイン	サンプリング	分析

2 測定対象物質等

		⑬ 種類	⑭ 名称	⑮ 製造又は取扱量	
当該単位作業場所において製造し、又は取り扱う物質		特1・特2・有1・有2・鉛・石・その他		/月	
				/月	
				/月	
⑯ 当該単位作業場所で行われる業務の概要					
⑰ 測定対象物質の名称					
⑱ 成分 指数の 計算	含有率 (%)				
	t の値				
	成分指数	$F =$			

3 サンプリング実施日時

	日 別	実 施 日	開始時刻 (イ)	終了時刻 (ロ)	時間 (ロ) - (イ)
⑲ A測定	1日目	年 月 日	時 分	時 分	分間
	2日目	年 月 日	時 分	時 分	分間
⑳ B測定		年 月 日	時 分	時 分	分間

4 単位作業場所等の概要

⑳ 単位作業場所 No.		㉓ A測定の測定点の数	1日目		2日目	
㉑ 単位作業場所の広さ	m ²	㉔ A測定の測定値の数	1日目		2日目	
㉕ 単位作業場所について						
(1) 有害物の分布の状況（発生源の特定、有害物の拡散状況とその範囲）						
(2) 労働者の作業中の行動範囲						
(3) 単位作業場所の範囲を決定した理由						

㉔ 併行測定を行う測定点を決定した理由

㉕ B測定 of 測定点と測定時刻を決定した理由

(1) 発生源に近接する場所における作業

(2) 濃度が最も高くなると思われる作業位置

(3) 濃度が最も高くなると思われる時間

㉖ A測定 of 測定点の数を5点未満に決定した理由

(1) 単位作業場所の広さ

(2) 過去における測定 of 記録

㉗(2) A測定 of 測定点の間隔を6m超に決定した理由

(1) 過去における測定 of 記録

㉘ 測定に係る監督署長許可 of 有無

有 (許可年月日 年 月 日 許可番号) 無

5 全体図、単位作業場所の範囲、主要な設備、発生源、測定点の配置等を示す図面（5ミリ方眼）

事業場名		作業場名	
<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; background-image: linear-gradient(to right, lightgray 1px, transparent 1px), linear-gradient(to bottom, lightgray 1px, transparent 1px); background-size: 20px 20px;"> <!-- Grid content --> </div>			

- 〔記号〕 ①、②、③……：A測定点 ㊦：B測定点 ●：併行測定点 ☒：発生源
- | | | | |
|---|--|--|---|
|  ：囲い式フード |  ：外付け式フード |  ：気流方向 |  ：気流滞留状態 |
|  ：上昇気流 |  ：下降気流 |  ：気流拡散状態 |  ：気象測定地点 |
|  ：労働者位置 |  ：労働者移動位置 |  ：単位作業場所の範囲 | |
|  ：換気扇 |  ：扇風機 |  ：プッシュプル | |

※単位作業場所の縦・横の寸法は必ず記入すること。その他必要事項については記載要領を参照。

6 測定データの記録 (1日目、2日目)

[A測定データ]

[単位 : ppm・mg/m³・f/cm³]

③④ 測定対象 物質の名称	E _① =		E _② =		E _③ =		E _④ =		E _⑤ =		E = 1
③④ No.	③⑤ C _①	③⑥ $\frac{C_{①}}{E_{①}}$	③⑤ C _②	③⑥ $\frac{C_{②}}{E_{②}}$	③⑤ C _③	③⑥ $\frac{C_{③}}{E_{③}}$	③⑤ C _④	③⑥ $\frac{C_{④}}{E_{④}}$	③⑤ C _⑤	③⑥ $\frac{C_{⑤}}{E_{⑤}}$	③⑦ $\sum_{i=1}^n \frac{C_i}{E_i}$
1											
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18											
19											
20											

[B測定データ]

③⑧	C _{B1}										
	C _{B2}										
	C _{B3}										

7 サンプリング実施時の状況

<p>③⑨ サンプリング実施時に当該単位作業場所で行われていた作業、設備の稼働状況等及び測定値に影響を及ぼしたと考えられる事項の概要 [作業工程と発生源及び労働者数]</p> <p>[設備、排気装置の稼働状況]</p> <p>[ドア、窓の開閉、気流の状況]</p> <p>[当該単位作業場所の周辺からの影響]</p> <p>[各測定点に関する特記事項]</p>											
天候		温度	℃	湿度	%	気流	～	m/s			

8 試料採取方法等

④① 試料採取方法	直接・液体・固体・ろ過・検知管（ ）用）・その他（ ）		
④② 捕集剤、捕集器具及び型式		④③ 吸引流量	L/min
④④ 捕集時間	分間（ 分間隔）	④⑦ 捕集量	L

9 分析方法等

④⑧ 分析方法	吸光光度・蛍光光度・原子吸光・誘導結合プラズマ質量分析・ガスクロマトグラフ・重量分析・計数・高速液体クロマトグラフ・検知管・その他（ ）
④⑨ 使用機器名及び型式	
④⑨-（2） 分析日	年 月 日～ 年 月 日（ 日間）

10 測定値（換算値）変換係数の決定（監督署長許可の場合のみ記入）

1 日目	⑤① 検知管指示値	ppm	⑤③ 捕集時間	分間
	⑤② 測定値（換算値）		⑤④ 測定値（換算値）変換係数	
2 日目	⑤⑤ 検知管指示値	ppm	⑤⑦ 捕集時間	分間
	⑤⑥ 測定値（換算値）		⑤⑧ 測定値（換算値）変換係数	

11 測定結果

[単位：ppm・mg/m³・f/cm³・無次元]

	区 分	1 日目	2 日目	M及びσ
A測定	⑦① 幾何平均値	M ₁ =	M ₂ =	M=
	⑦② 幾何標準偏差	σ ₁ =	σ ₂ =	σ=
	⑦③ 第1評価値	E _{A1} =		
	⑦④ 第2評価値	E _{A2} =		
B測定	⑦⑤	C _B =		

12 評 価

⑦⑨ 評価日	年 月 日			
⑦⑩ 評価箇所	②①の単位作業場所と同じ			
評価結果	⑦⑪ 管理濃度	E = [ppm・mg/m ³ ・f/cm ³ ・無次元]		
	⑦⑫ A測定の結果	E _{A1} < E	E _{A1} ≥ E ≥ E _{A2}	E _{A2} > E
	⑦⑬ B測定の結果	C _B < E	E × 1.5 ≥ C _B ≥ E	C _B > E × 1.5
	⑦⑭ 管理区分	第1	第2	第3
⑦⑮ 評価を実施した者の氏名				

作業環境測定結果記録表 (C 個人サンプリング法用)

報告書(証明書)番号 _____

1 測定を実施した作業環境測定士

⑪ 氏名	⑫ 登録番号	実施項目の別		
	—	デザイン	サンプリング	分析
	—	デザイン	サンプリング	分析
	—	デザイン	サンプリング	分析
	—	デザイン	サンプリング	分析
	—	デザイン	サンプリング	分析

2 測定対象物質等

		⑬ 種類	⑭ 名称	⑮ 製造又は取扱量	
当該単位作業場所において製造し、又は取り扱う物質		特1・特2・有1・有2・鉛		/月	
				/月	
				/月	
⑯ 当該単位作業場所で行われる業務の概要					
⑰ 測定対象物質の名称					
⑱ 成分 指数の 計算	含有率(%)				
	t の値				
	成分指数	$F =$			

3 サンプリング実施日時

	日別	実施日	開始時刻	終了時刻
⑲ C測定	1日目	年 月 日	時 分	時 分
	2日目	年 月 日	時 分	時 分
⑳ D測定		年 月 日	時 分	時 分

4 単位作業場所等の概要

⑳ 単位作業場所 No.		㉓ C測定 of 労働者の数	1日目	2日目
㉑ 単位作業場所の広さ	m ²	㉔ C測定 of 測定値の数	1日目	2日目
㉕ 単位作業場所について				
(1) 有害物の分布の状況 (発生源の特定、有害物の拡散状況とその範囲)				
(2) 労働者の作業中の行動範囲及び作業時間 (有害物ばく露作業に従事するすべての労働者に係るもの)				
(3) 単位作業場所の範囲を決定した理由				

㉗ C測定のスプリング計画（判断理由も含めて記載すること）

（1）均等ばく露作業の内容及び場所

（2）均等ばく露作業内の試料採取機器装着者の人数及び作業内容

（3）試料採取等の時間（時刻）

（4）均等ばく露作業の労働者数が5人未満であって、試料採取時間を均等に分割した場合は、採取試料数及び試料採取時間等

㉗-（2）C測定のスプリング時間の短縮を決定した理由

（1）作業の内容が「同一作業を反復する等労働者にばく露される化学物質等の濃度がほぼ均一であることが見込まれるもの」に該当する理由

（2）試料採取時間（時刻）（2時間を下回らない範囲内であること。）

㉘ D測定を行う労働者と測定時刻（判断理由も含めて記載すること。）

（1）発生源に近接する場所における作業の内容

（2）濃度が最も高くなると思われる時間（時刻）

（3）（1）の作業に従事する（D測定の対象となる）労働者の番号及び選定理由

㉙ 測定に係る監督署長許可の有無

有（許可年月日 年 月 日 許可番号 ） 無

5 全体図、単位作業場所の範囲、主要な設備、発生源、労働者の配置及び作業中の行動範囲等を示す図面（5ミリ方眼）

事業場名		作業場名	
<div style="background-color: #e0e0e0; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔記号〕 ①、②、③……：C測定労働者 ④：D測定労働者 ☒：発生源</p> <p> ：囲い式フード ：外付け式フード ：気流方向 ：気流滞留状態 ：上昇気流 ：下降気流 ：気流拡散状態 ：気象測定地点 ：労働者位置 ：労働者移動位置 ：単位作業場所の範囲 ：換気扇 ：扇風機 ：プッシュプル </p> </div>			

※単位作業場所の縦・横の寸法は必ず記入すること。
 図面の空欄又は別紙に試料採取機器等の吸入口の装着位置を図示すること（写真の貼付によることも可能であること）。その他必要事項については記載事項を参照。

6 測定データの記録（1日目、2日目）

〔C測定データ〕

〔単位：ppm・mg/m³・f/cm³〕

③⑩ 測定対象 物質の名称	E _① =		E _② =		E _③ =		E _④ =		E _⑤ =		E = 1
③④ No. (労働者番号)	③⑤ C _①	③⑥ $\frac{C_{①}}{E_{①}}$	③⑤ C _②	③⑥ $\frac{C_{②}}{E_{②}}$	③⑤ C _③	③⑥ $\frac{C_{③}}{E_{③}}$	③⑤ C _④	③⑥ $\frac{C_{④}}{E_{④}}$	③⑤ C _⑤	③⑥ $\frac{C_{⑤}}{E_{⑤}}$	③⑦ $\sum_{i=1}^n \frac{C_i}{E_i}$
1 ()											
2 ()											
3 ()											
4 ()											
5 ()											
6 ()											
7 ()											
8 ()											
9 ()											
10 ()											
11 ()											
12 ()											
13 ()											
14 ()											
15 ()											
16 ()											
17 ()											
18 ()											
19 ()											
20 ()											

〔D測定データ〕

③⑧	C _{D1} ()										
	C _{D2} ()										
	C _{D3} ()										

7 サンプリング実施時の状況

⑨ サンプリング実施時に当該単位作業場所で行われていた作業、設備の稼働状況等及び測定値に影響を及ぼしたと考えられる事項の概要
〔作業工程と発生源及び労働者数〕

〔設備、排気装置の稼働状況〕

〔ドア、窓の開閉、気流の状況〕

〔当該単位作業場所の周辺からの影響〕

〔各労働者のサンプリング状況、試料採取機器装着者の労働者番号と測定データ番号の対応関係〕

天候		温度	℃	湿度	%	気流	～	m/s
----	--	----	---	----	---	----	---	-----

8 試料採取方法等

① 試料採取方法	直接・液体・固体・ろ過・検知管（ ）用）・その他（ ）		
② 捕集剤、捕集器具及び型式		③ 吸引流量	L/min
④ 捕集時間	分間（ 分間隔）	⑦ 捕集量	L

9 分析方法等

⑧ 分析方法	吸光光度・蛍光光度・原子吸光・誘導結合プラズマ質量分析・ガスクロマトグラフ・重量分析・計数・高速液体クロマトグラフ・検知管・その他（ ）
⑨ 使用機器名及び型式	
⑨-（2） 分析日	年 月 日～ 年 月 日（ 日間）

10 測定値（換算値）変換係数の決定（監督署長許可の場合のみ記入）

1日目	⑤① 検知管指示値	ppm	⑤③ 捕集時間	分間
	⑤② 測定値（換算値）		⑤④ 測定値（換算値）変換係数	
2日目	⑤⑤ 検知管指示値	ppm	⑤⑦ 捕集時間	分間
	⑤⑥ 測定値（換算値）		⑤⑧ 測定値（換算値）変換係数	

11 測定結果

[単位：ppm・mg/m³・f/cm³・無次元]

	区 分	1日目	2日目	M及びσ
C測定	⑦① 幾何平均値	M ₁ =	M ₂ =	M=
	⑦② 幾何標準偏差	σ ₁ =	σ ₂ =	σ=
	⑦③ 第1評価値	E _{C1} =		
	⑦④ 第2評価値	E _{C2} =		
D測定		⑦⑤ C _D =		

12 評価

⑨⑨ 評価日	年 月 日			
⑨⑩ 評価箇所	②①の単位作業場所と同じ			
評価結果	⑨⑪ 管理濃度	E = [ppm・mg/m ³ ・f/cm ³ ・無次元]		
	⑨⑫ C測定の結果	E _{C1} < E	E _{C1} ≥ E ≥ E _{C2}	E _{C2} > E
	⑨⑬ D測定の結果	C _D < E	E × 1.5 ≥ C _D ≥ E	C _D > E × 1.5
	⑨⑭ 管理区分	第1	第2	第3
⑨⑮ 評価を実施した者の氏名				